



生態学デビュー

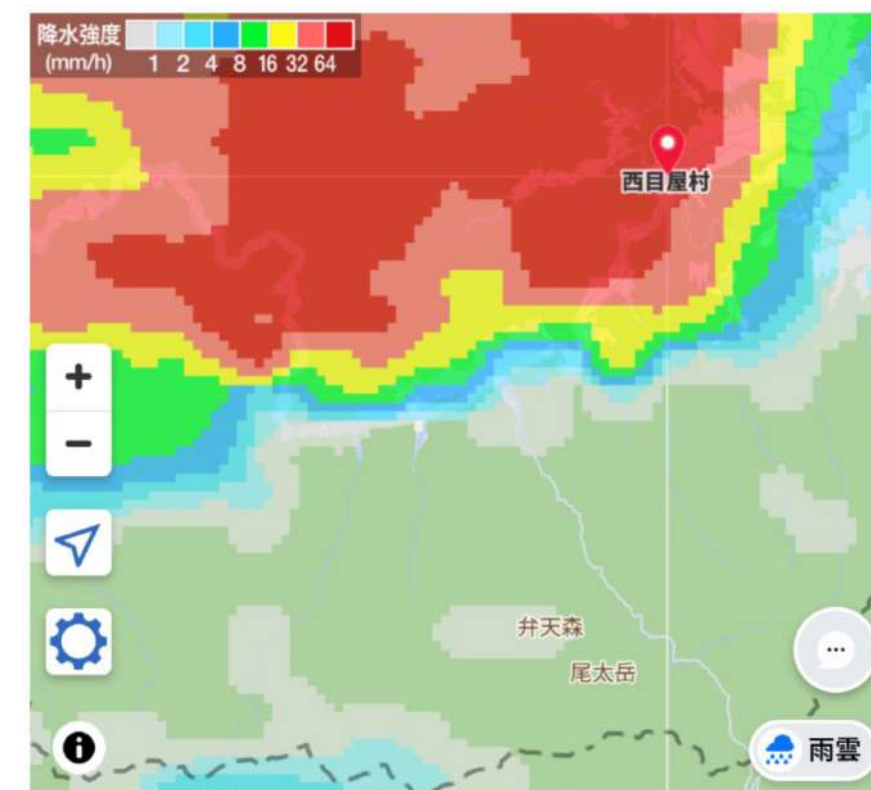
龍谷大学の塩尻かおり先生、榮村奈緒子研究員と共に、西目屋村にある弘前大学の白神自然環境センターを訪問しました。植物気候フィードバック領域では、生態学を専門にされているメンバーが多く、普段の会議などでその研究成果を聞くのを楽しんでいました。が、自分で実験するとなるとその興奮度合いは桁違いです。普段はラボの中で μm や nm などのスケールの実験をしている私にとって、森の中の実験というのは新世界でした。「これ？」と実験器具の違いに驚いたり、「ここ!？」というところに作業の勘所があったりと、私自身の研究の視野が広がったとても貴重な体験でした。

勘所を掴んだ笑顔

故郷での研究活動

今回のインターンシップで、生まれてから高校生まで育った津軽の白神山地で研究活動を行うことができたのも感慨深かったです。子供の頃は学校の自然教室などで白神山地のブナの原生林を見に行っても、正直なところ「ミヤマクワガタいないかな」と虫のことしか頭になかったように記憶しています。それに比べて、今はイソプレンどれくらい出てるかなと成分についても考えるようになりました。少しは成長して凱旋できたのかなと思います。次にセンターを訪問する際にはもっとレベルアップしているように頑張りたいと思います。

帰路で見た二重の虹（目視ではもう1本）



西目屋村を襲う雨雲（ウェザーニュース調べ：<https://weathernews.jp/onebox/radar/>）

雨での中断

午前の実験を終えてお昼ご飯を食べている最中、土砂降りの雨が降り始め、午後の作業が中断しました。予定通り終わるかなと私は少し不安でしたが、塩尻さんと榮村さんは全く動じておらず、午後の計画をテキパキと立てていたのが印象的でした。慣れもあるのだろうと思いますが、生態学者（言い過ぎであれば塩尻さんと榮村さん）の物おじしないメンタリティをぜひ身に付けたいと思いました。また、色々とお二人と研究やそうでないことなど、いろいろ話して仲良くなり、楽しいひと時でした。

REPORTER



永野班 棟方 涼介

京都大学生存圏研究所
森林圏遺伝子統御分野
／助教